

千葉市歴史読本「史料で学ぶ千葉市の今むかし」を刊行しました！

千葉市では、本市の原始・古代から近現代に至る歩みについて、関係する史料などを取り上げて解説した市民向けの歴史読本「史料で学ぶ千葉市の今むかし」を刊行しましたので、お知らせします。

1 書名

千葉市歴史読本「史料で学ぶ千葉市の今むかし」

2 本書の特徴・構成（詳細は次頁参照）

本書は、昨年1月1日に市制100周年という大きな節目を迎えた千葉市の歴史について、原始・古代から近現代までの歩みを1冊にまとめたものです。

本市の通史を概観できるだけでなく、数々の貴重な史料から郷土の歴史を学べる本にもなっています。構成は以下のとおりです。

序章 千葉市の紹介（コラム1）

第1章 原始・古代（時代概説、テーマ項目5、コラム7）

第2章 中世（時代概説、テーマ項目6、コラム11）

第3章 近世（時代概説、テーマ項目7、コラム14）

第4章 近現代（時代概説、テーマ項目7、コラム7）

付録 （千葉市の主な祭礼・信仰、略年表など）

3 体裁

B5判・オールカラー 220ページ

4 刊行年月

令和4年3月

5 印刷部数

3,000部

※有償頒布のほか、市内小中学校、図書館、市政情報室などに配架予定

6 有償頒布

(1) 開始日

令和4年3月11日（金）

(2) 価格

1,000円／部

(3) 場所

ア 郷土博物館（中央区亥鼻1-6-1）

イ 市政情報室（中央区千葉港2-1 千葉中央コミュニティセンター2階）



千葉市歴史読本「史料で学ぶ千葉市の今むかし」

<参考>本書の特徴について

(1) 本市の過去の歩みを1冊に

本市の原始・古代から近現代までの歴史を1冊にまとめたはじめての一般市民向けの歴史読本です。本市における歴史上重要なトピックとなることをテーマ項目として取り上げ、市史編さん事業で確認できた史資料等をもとに解説しています。市民が気軽に本市の歴史に触れることのできる内容となっています。

(2) どこからでも読める

全体は原始・古代、中世、近世、近現代の4章構成で、各時代は「時代概説」と3～5ページの「テーマ項目」、1～2ページの「コラム」で編成されており、興味のある部分から読むことができます。

(3) 貴重な史料を多数紹介

各テーマ項目では本市に関わる重要で魅力的な歴史資料や写真などを冒頭に掲げ、そこから何がわかるのかを丁寧に解説しています。貴重な史料を見ながら歴史を読み解き、歴史を知り学ぶ楽しさを追体験することができます。

(4) 研究成果を読みやすく

各項目やコラムは図版を多用するとともに、「見る・読む（読み取る・読み解く）・学ぶ」や「歩く・知る・考える・深堀りする」などの見出しを立て、読みやすくなる工夫をしています。さらに執筆は各分野の専門家等が分担しており、近年の研究成果を踏まえつつ、できるだけ平易な文章となるよう努めました。

【テーマ項目】



【コラム】

